

# たすけ愛♡はしもと だより

第 12 号  
令和元年 10 月

発行 橋本市社会福祉協議会 〒648-0072 橋本市東家 1-3-1 TEL33-0294

全国的に高齢化が進んでいて、橋本市も高齢化が進んでいます。そんな中、これからも安心して橋本市での暮らし（生活）が続けられるようにするためには、いざという時に駆けつけてくれたり、ちょっとしたお手伝いを頼めるような身近な地域の助け合いが必要です。

そのため、地域づくりの基盤となる「協議体（井戸端会議）」を市内各地区に設置し、住民のみなさんが主体となって進められています。現在、9地区に協議体が設置されています。

協議体の進捗状況や地域の取組みなどを紙面にてご紹介します。

## 「たすけ合う隅田」〜隅田地区〜

市内の協議体では、2番目に多い12地域の集まりです。協議体は、毎月1回開催し、開催頻度は、市内でも一番多いです。その成果が今、各地域において芽がでてきています。SC※のリーダーシップがあつてこそといっても過言ではないと思います。

まず、「協議体12地域の集まり」と一括りにはできず、それぞれの地域の実情にあつた「地域づくり」が大切ということ、各地域で、取り組むテーマを決めて、話し合ってきました。

現在、各地域では、区が中心となつたり、少人数の委員会等を立ち上げ、様々

な形で地域の基盤（軸）となる組織の立ち上げが行われています。隅田地区全体で統一されたテーマではなく、まずは、身近な地域の課題から始める。決して、押し付けでなく、約1年を通して、話し合ってきたからこそ、協議体メンバーの共通した理解へとつながつたと思えます。

今、協議体は、2カ月に1回の開催に変わり、話題の中心は、地域の進捗状況をみんなで共有することです。

また、共通の課題である「移送」や「買い物支援」についても、アンテナをはつていて、スーパーのネット販売や宅配サービスの情報チラシを協議体で配布し、地域のお年寄りに情報提供しています。

それぞれの地域の取組みと平行しながら、地区全体の課題についても協議しています。

## 「あつたか恋し野」〜恋野地区〜

どんな地域づくりが必要なのかを把握するため、恋野地区の65歳以上の方を対象に、生活状況を把握するためのアンケートを行いました。手助けしてほしいことでは、「病気になる時のお世話」や「車での送迎」などの傾向がわかりました。同時に手助け出来る人を把握することも出来ました。具体的には、安否確認や声掛けが一番多かったです。

そこで、協議体に参加しているメンバーに地域や個人で行っている安否確認や声掛けについて情報交換した結果、恋野地区にぴったりの協議体があり方が見えてきました。

地域ではサロン、老人クラブ等、また、個人では、一人暮らし高齢者への定期的な声掛けなどを既に行っていましたがお互いの関係性に留まらず、全体で共有する機会がなかったということでした。それならば、協議体をその場にしよう！という考えです。そうすることで、それぞれの活動を意味づけることにもつながります。具体的には、協議体において、活動を通じて把握した地域のお年寄りの生活の困りごとや不安に思ってい

※SCとは  
生活支援コーディネーターのことを指します。  
主に協議体を運営する中心的な存在。また、事務局機能も担ってくれています。協議体に参加している住民の中から選ばれて、人数は協議体によって、異なります。  
現在、市内の生活支援コーディネーターは、31名います。



協議体では熱心に話し合いが行われています。

る事等を個人が特定する内容は伏せて共有するという事です。これにより、それぞれの地域の情報が全体で共有され、離れた地域で行っていることも自分の地域として捉えるということもできます。

手助けしてほしい「車での送迎」には、今、直接関係はなくても、地域の方々が主体的に取り組んで行きながら関係性を構築していく、このような積み重ねが地域づくりとなり、送迎やゴミだし等の生活支援へのサービスへとつながっていく大切なプロセスだと思えます。

## 地域の「絆」づくり



隅田町河瀬に新しく、男サロン「居酒屋こうぜ」がオープン。発起人は区長の石井さん。毎月第4木曜日・午後5時〜午後7時に集会所で開催されています。一人300円で区民の60歳以上の男性なら参加OK。居酒屋なので、料理・お酒・ビールもあります。15人〜20人が参加されています。

河瀬に、サロンはありませんが、男性の参加が少ないことに区長さんは悩まれていて、男性にも気軽に参加できる集いの場が必要ということでサロンを始められました。

## 地域の男性に「居場所」を

河瀬区長 石井 雁男さん



「たすけ合う隅田」のメンバーでもある区長さんは、高齢化社会における河瀬区民の生活支援に向けた取組みを検討されています。



会場は本当に居酒屋のように、ワイワイガヤガヤで楽しい雰囲気。黑板には、本日のお品書きも。手作りの料理に話もお酒も進みます。

受付・調理・配膳・会場内外の飾りつけ・後片付け等、もちろん全て男性で行います。このような役割も、さらに不慣れな調理も、任せられると自然と責任感もでて、さらに喜んでもらえることやりがいいもつながります。何より、同じ地域に住むみんなが集い、顔が見られて笑いながら話せる、そんな場が地域にあるということが、一番の魅力だと思えます。

区長さん・スタッフさんからは、「もともと、団結力がある地域。でも、運動会や地域の催し等には参加できなかった人が、サロンには来てくれていて。あらたな地域のつながり作りの場となっている。今後も継続したい。こういったつながりが、いざという時に『地域の力』になると思っている」と話してくれました。

このような居場所の大切な意義は、通いの場ということだけでなく、居場所が地域の基盤となり、人が交流し相互に共感を持つようになって、互助が醸成されていくことだと思えます。